

特集

内膜を極める I

—内膜の機能と着床をめぐる最近の話題—

企画者のことば

堤 治* 久須美真紀*

子宮内膜の主な機能は受精卵の着床の場であり、生殖補助医療(ART)の臨床や研究においてその解明は重要である。受精卵に対する臨床や研究はPGT-Aやゲノム編集などの報告もあり、より顕著で話題性に富んでいる一方、子宮内膜はブラックボックス的な要素もあり、研究が遅れているという印象をもつ方も少なくないと推察される。

ところが近年、分子遺伝学の応用や様々なアプローチにより、内膜の機能と着床をめぐる新しい知見が相次いでいる。また、子宮内膜機能に関係する婦人科疾患の治療法にも革新的進歩がみられている。本特集では「内膜を極める」ため、「内膜の機能と着床をめぐる最近の話題」と「婦人科疾患の治療と内膜機能」の2部構成で、子宮内膜の臨床と研究のアップデートを図った。

第1部では、子宮内膜と着床について構造や分子メカニズム、脱落膜化に関わる因子につい

て最新の知見を幅広く知ることができる。また、新しい知見から応用された最新の子宮内膜着床能の検査を遺伝子発現、炎症、子宮内細菌叢の各分野から紹介し、明日の診療にすぐさま役立つ情報を得ていただきたい。再生医療の応用は子宮内膜の最新のトピックスであり、研究レベル、臨床分野から興味深い内容である。子宮内膜の機能として、蠕動運動が着床にかかわることは示唆されており、不妊治療分野での取り組みをご紹介いただいた。最後に、PCOSは排卵障害を主徴とするが、子宮内膜機能温存という視点から管理についてまとめていただいた。

本特集は、どの項目も深い真理をわかりやすく解説し、ブラックボックスの中にあった子宮内膜や着床現象が、自ずから透けてみえてくるような、読んで楽しく役に立つものと自負しております。研修医から専門家まで、座右の書として知識のアップデートを図っていただければ幸いです。

* Osamu Tsutsumi, Maki Kusumi 山王病院リプロダクション・婦人科内視鏡治療センター/国際医療福祉大学大学院生殖補助医療胚培養分野